漢詩鑑賞　令和六年三月　　　　　　　　　　　　　　　　　玉井幸久

　　曲江春草　　　　　　の

花落江隄簇暖煙　　ちてにり

　雨餘草色遠相連　　の　くなる

　香輪莫輾靑靑破　　　をりることく

　留與遊人一醉眠　　にしてせしめよ

【通釈】

　起句　花が散った後の曲江の隄には、暖かいもやがたなびき、

　承句　雨あがりの若草の色が遠く連なっている。

　転句　その中に乗り入れて来る美しい馬車よ、どうかこの青々とした草をひきつぶ

　　　　　してしまわないで、

　結句　ここで春を楽しんでいる遊人がちょつと酔って眠るくらいの余地は残してお

　　　　　いてもらいたい。

【語釈】

　曲江…長安の東南隅にあつた池苑の名。水流が屈曲しているのでこの名がある。

　　　　　初め漢の武帝がこの地に宜春苑を造り、唐の開元年間に疏鑿を加え池畔に

　　　　　紫雲樓、芙蓉苑、杏園、慈恩寺、樂遊原等の勝地があった。

　　　　　唐代、春その年の進士及第者に曲江にて皇帝から宴を賜った。

　暖煙…あたたかいもや。

　雨餘…雨あがり。雨降りのあと。

　香輪…立派な馬車。高貴の馬車。

　輾破…車輪が物をひきつぶす。

　靑靑…青々とした草。

　留與…とどめあたえる。

　醉眠…酒に酔って眠る。

【押韻】

　平声　先韻。煙、連、眠、

【解説】

　鄭　谷（八四二？―九一０？）は唐、袁州（江西省）宜春の人。字は守愚。

　光啓三年（八八七）進士及第、右拾遺、都官老中に到った。末唐期の芳林十哲の一

　人に数えられる。

　唐代、春のはじめに野外に遊び飲食することを踏靑と云い、二月二日を踏靑節と

　呼んだ。

　この詩は、曲江踏靑の模様をさらりと詠じた佳作であるが、或いは作者自身科挙

　落第時の作とし、転句の香輪は皇帝の賜宴に集う及第者達のもの、結句の言わ

　んとするところは「少しは落第者の身にもなつてくれ」と解することも出来る。

　今日の我が国の春の花見の喧騒さえ思わせる作品です。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上